

薩摩硫黄島の火山活動解説資料（平成 23 年 11 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過しました。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に対する警戒が必要です。

風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石に注意が必要です。

平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 11 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2）

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過しました。白色の噴煙が、最高で火口縁上 600 m まで上がりました。

・地震や微動の発生状況（図 1）

火山性地震の発生回数は、月回数は 159 回（10 月：169 回）と少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした（10 月：2 回）。

・熱観測の状況（図 4、図 5）

26 日に実施した赤外熱映像装置¹⁾による観測では、前回（2008 年 4 月）と比較して、地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

・火山ガスの状況

26 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり 800 トンでした。

1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 12 月分）は平成 24 年 1 月 10 日に発表する予定です。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 10m メッシュ（火山標高）』『数値地図 25000（地図画像）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

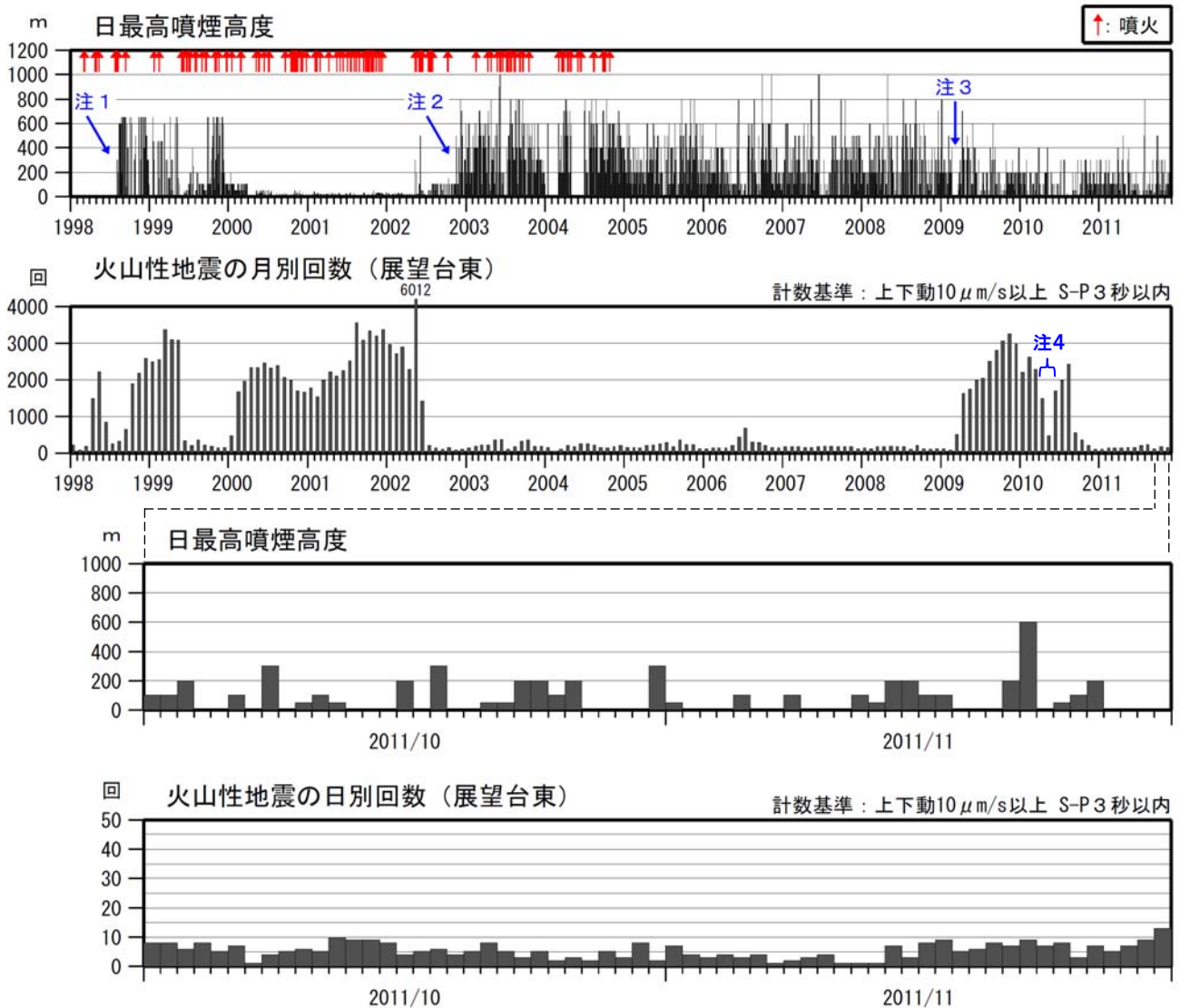


図1 薩摩硫黄島 火山活動経過図 (1998年1月～2011年11月)

<11月の状況>

- ・白色の噴煙が、最高で火口縁上 600mまで上がりました。
- ・火山性地震の発生回数は、月回数が 159 回 (10月: 169回) で、少ない状態で経過しました。
- ・火山性微動は観測されませんでした (10月: 2回)。

注1 1998年8月1日

三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。

注2 2002年11月16日

気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。

注3 2009年2月23日～3月21日

遠望カメラ障害のため噴煙は不明。

注4 地震計障害のため火山性地震及び火山性微動の回数が不明の期間がある。



図 2 薩摩硫黄島 硫黄岳の噴煙の状況（11月22日、稲村岳西山麓遠望カメラによる）

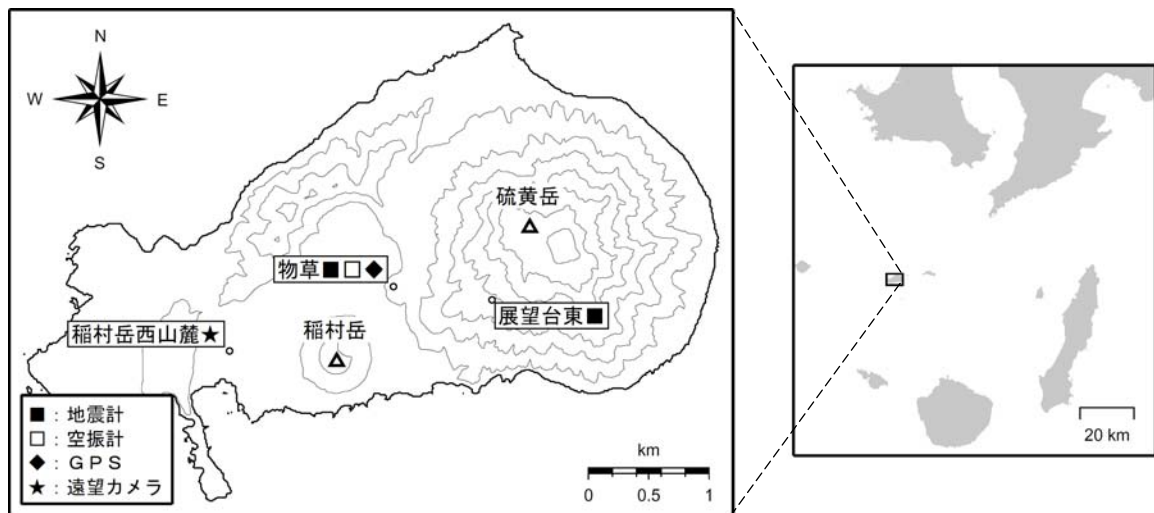


図 3 薩摩硫黄島 観測点配置図

小さな白丸は気象庁の観測点位置を示しています。

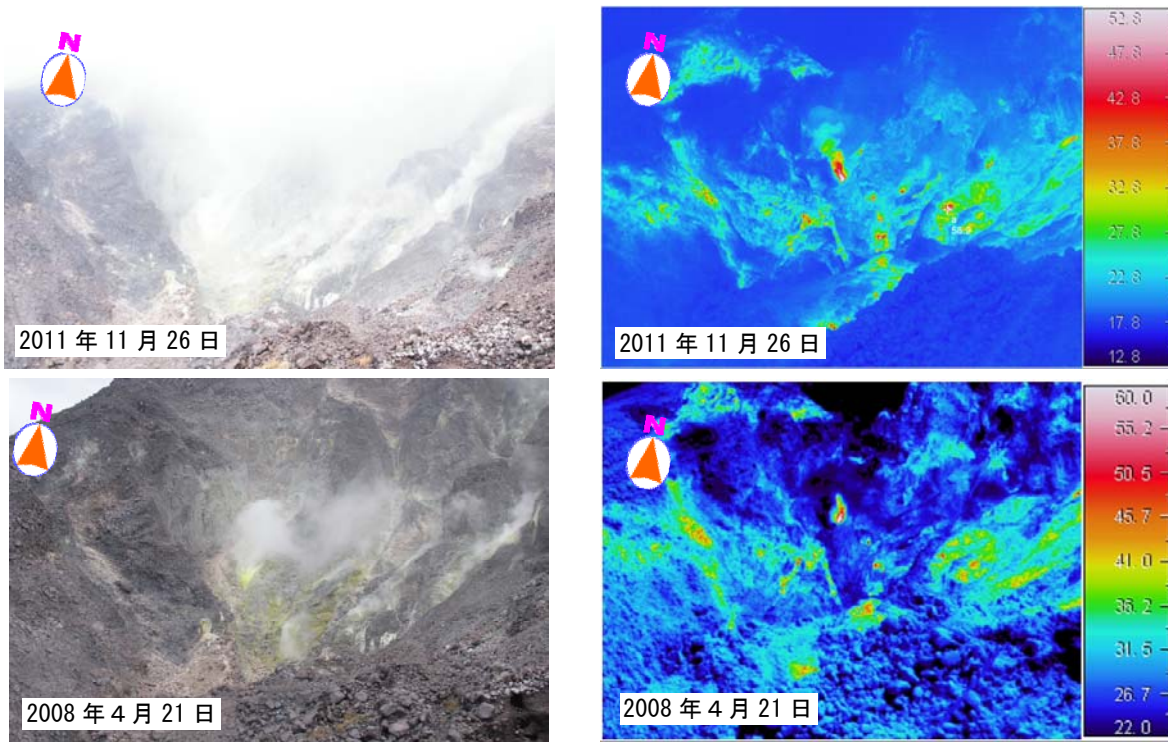


図 4 薩摩硫黄島 赤外熱映像装置による硫黄岳の地表面温度分布
（26 日、観測定点から撮影）

前回（2008 年 4 月）と比較して、地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

赤外熱画像の温度表示レンジは、熱異常域ではない領域の平均温度で調整して表示しています。

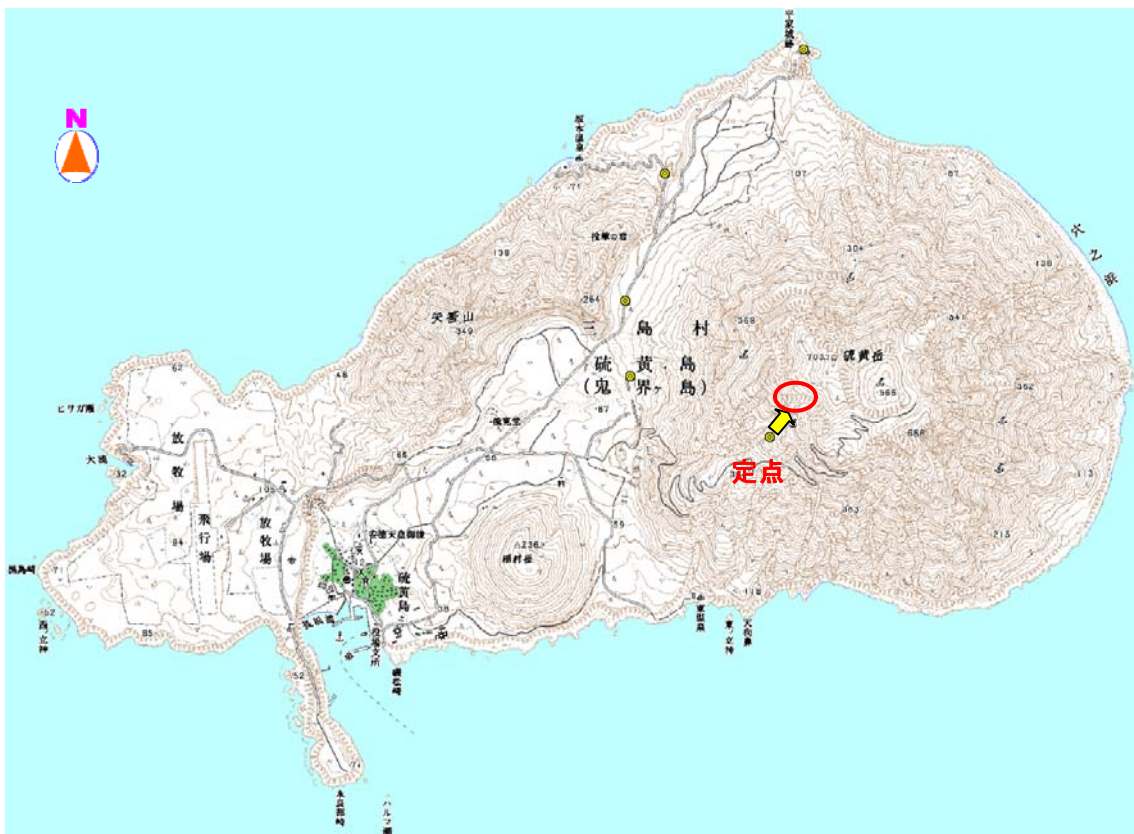


図 5 薩摩硫黄島（図 4 の熱観測定点）

図中の赤丸は図 4 の噴気地帯を示しています。